



図書館だよりNo. 1

夏休みも終わり新しい季節に移り変わってきました。皆さんは有意義な夏休みを過ごせましたか？秋と言えば「食欲の秋」「スポーツの秋」そして「読書の秋」とも言われています。過ごしやすい気候になってきて何ごとにも集中しやすい今だからこそ、皆さんも本を読んでみてはいかがでしょうか？



【校長先生のおすすめ】 『悩む力』(集英社新書) 姜尚中

皆さんは悩んだことがありますか？

思えば私の人生は悩みの連続でした。青春真っ只中の皆さんは、たくさんの方に悩んでいるのではないのでしょうか。

この本で著者は、「誰もが新しい情報技術とコミュニケーションを通じて繋がっているように見えながら、人と人との関係は消えゆく泡のようにはかなくなっている。多くの人がかつてないほどの孤立感にさいなまれているように見える。そうでなければ、これほどの自殺者の増加はないだろう。」加えて、「『変化』のスピードが猛烈に速いということが現代人のたいへんな重圧になっている。不動産の価値がほとんどなく、『変化するか、死か』という状況。それでいて、人間は「不動産の価値」を求めてしまう。変化を求めながら、不動産のものを求める。現代人は、相反する欲求に精神を引き裂かれている。」と言っています。

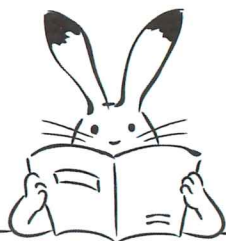
また、目指すべき知性について、二つ挙げています。一つ目は「なにをすべきか」「なにが好きか」「なにを知るべきか」が調和しないということを感じつつも、貪欲に知の最先端を走ってみる、という知のあり方。二つ目は「人間の肉体や感覚には限界があるのだから、自分の世界を広げるのではなく、身の丈にあわせてサイズを調整し、その世界にあるものについてはほぼ理解できている、という知のあり方」。

全体を通して「まじめに悩んで欲しい、それが生きる力になる」と伝えてくれていて「悩むこと」「悩んでしまう人」を肯定してくれる本ですので、是非読んでみてください。

【図書委員のおすすめ】 『ある晴れた夏の朝』(文春文庫) 小手鞠るい

広島と長崎に原爆が投下されてから今年で79年が経った。世界で唯一の被爆国となった「日本」から離れ、原爆投下を実行したアメリカでアメリカの高校生たちによる討論会が開かれた。テーマは原爆投下の是非についてだ。日系アメリカ人のメイをはじめアイルランド系、中国系、ユダヤ系、アフリカ系と、ルーツがさまざまな高校生がディベートを展開していく。メインテーマは原爆の是非だが、話は真珠湾攻撃、日中戦争、ナチズム、アメリカマイノリティなどにも及ぶ。この物語は日本人の母を持つメイに焦点をおいているが、彼女だからこそ思うものや見えるものがある。はたして、どのような議論が繰り広げられるのか、そして勝敗の行方は？

私はこの本を読み、原爆投下や戦争、民族の対立などどんなことも感情的にだけでなく論理的に考えること、一つの見方だけでなく多角的な見方で物事を捉えることが必要だと考えさせられました。みなさんも一度立ち止まって新たな視点で考えてみてはいかがでしょうか。



利用に役立つ！覚えてね！

<本の借り方>・・・貸出(青)

①パソコンの横にある青いファイルから自分の個人番号バーコードをスキャンする。(学年順・五十音順)

②本のバーコードを読み取る → できなかつたら番号を入力

③Enter キーを押す

④画面右下のクリアをクリック

<本の返し方>・・・返却(赤)

①本のバーコードを読み取る

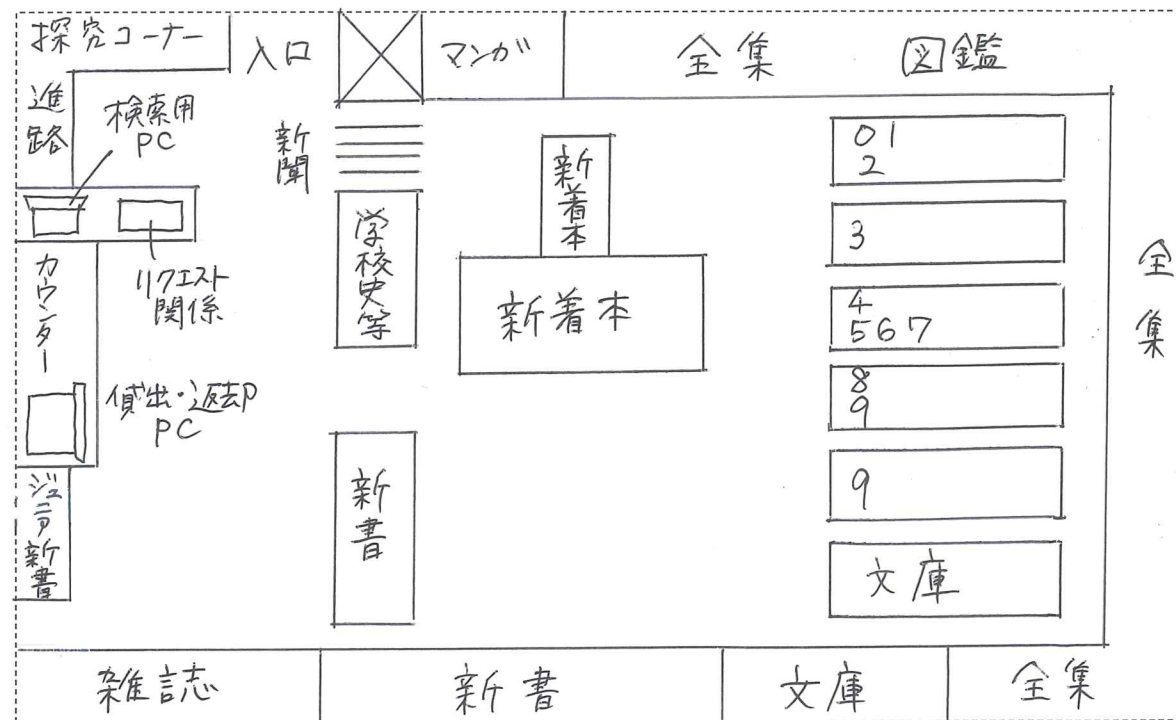
②Enter キーを押す

③画面右下のクリアをクリック



図書館案内図

* 大まかな配置. 机は省略



リクエストの方法について

図書館カウンターの用紙に記入する方法と、右記QRからリクエストする方法があります！どちらでも！！



マナーを守ろう！

残念ながら図書館の利用に難ありの生徒が目立ちます。周囲への気遣いをお忘れなく！！